

「選考会」

第 1 話

— 2 稿 —

2022/7/13

緋片 イルカ

〈人物表〉

林 一郎

(41)

シナリオライター志望、サラリーマン

田中 花子

(27)

シナリオライター志望、アルバイト

鈴木山 道夫

(57)

制作会社プロデューサー

1. 制作会社ビル・外観（昼）

7階建てのビル。蝉の鳴き声がきこえる。

2. 制作会社ビル・6階会議室（昼）

小さな会議室。テーブルに横並びの男女。

林一郎（41）、落ち着かない様子で揉み手。

チラッと女を見る。

田中花子（27）、澄ました顔で音楽を聴いている

林、苛立つ顔。

ドアが開いて、鈴木山道夫（57）が入ってくる。

鈴木山「いいか、柱は『柱2』というスタイルを使うんだ」

鈴木山、二人の顔を見る。

3. おまけ

林 「僕みたいに名前が一文字ならこうやって、2マス空ける。

といいよ」

花子 「名前が二文字ならこう。一般的に女性は下の名前で呼ぶと言われたりもするけど作品次第。そんなルール古いわ。あー、語尾に『わ』なんてつける話し方も、ぜったいにやめてよ」

林 「花子くん、セリフが二行以上いくのはちょっと長いかもしれないな」

花子 「セリフは役者さんが喋るセリフなんだから、声に出して確認してみるのが一番いいね」

ジョンレノン 「ちなみに僕みたいに名前が長いときはしょうがない。レット・イトビーさ」

× × ×

一方、鈴木山は一人で考えている。

鈴木山 「スタイルを楽に入れる方法はないか……」

鈴木山、ひらいめいて手を叩き、

鈴木山 「ショートカットをつけよう。ワードのパージョンにもよるが、スタイルの上で右クリック、変更、書式、書式、ショートカットキーの割当てだ」

（了）